

あなたにとっての、いちばんへ。

1st for You.



Matsumoto KiYoshi
Holdings

株主の皆様へ

第 **5** 期 報 告 書 平成23年4月1日 ➤ 平成24年3月31日

目次

- P1 トップメッセージ
- P5 トピックス
- P9 店舗ネットワーク
- P11 連結財務諸表
- P13 アンケート結果のご報告
- P14 株式の状況・会社概要

株式会社 **マツモトキヨシ** ホールディングス

証券コード：3088

トップメッセージ

株主の皆様へ

株式会社マツモトキヨシホールディングスの第5期業績のご報告並びに第6期以降の取り組みについてご説明するにあたり、ここに謹んでご挨拶申し上げます。株主の皆様の平素のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

また、当社グループは平成24年12月に創業80周年を迎えることから、この節目の年を新たな成長への布石とすべく、グループ丸となって更なる企業価値の向上に邁進してまいります。

代表取締役会長兼社長

松本 南海雄



第5期（平成24年3月期）の業績について

シーズン商品の伸長・店舗収益の改善・効率的な販売促進施策の導入・M&Aなどにより、売上高・利益ともに過去最高となりました。

当連結会計年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）における日本経済の状況は、東日本大震災による影響は引き続き見られるものの、復旧・復興に向けた需要の拡大もあり経済活動や個人消費は一部で持ち直しの兆しが見られております。

一方、欧州の金融不安・米国の景気減速懸念、それらに伴う円高の進行・株価の下落など、景気下振れ懸念が存在し、先行きは予断を許さない状況で推移しました。

ドラッグストア業界におきましても、震災の影響による生活用品や節電対応に伴う関連商材の需要が増加するなど堅調に推移したものの、雇用情勢の悪化や所得に対する不安など、先行き不透明な状況から、依然として消費マインドの冷え込みが継続しております。

このような環境のなか、当社グループは、厳しい環境下においても安定して利益を創出できる収益基盤を確立すべく、3つの重点施策（①ドラッグストア事業の抜本的な収益改善 ②収益構造改革 ③人材育成と組織の活性化）に取り組むことで、営業力強化と経営効率の改善に努めてまいりました。

営業活動におきましては、効率的かつ効果的な販促策の実行、お客様ニーズ・地域環境を反映したMKカスタマー（プライベートブランド商品）を

含めた品揃えの拡充や専門人材によるカウンセリング体制の強化など、顧客満足度の向上とともに、常に新しい付加価値の創出と心のこもったサービスの提供を推進してまいりました。

また、小商圏化する市場への対応として、競合対策及び各地域における競争優位性を確保すべくドミナント戦略を推進するとともに、事業規模の拡大と企業価値向上を目的とした直営店の新規出店、フランチャイズ事業、M&Aにも注力しました。

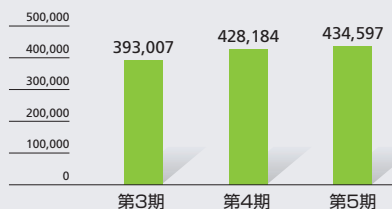
更に、グループ競争力の強化、ドミナント戦略の一環として、平成24年1月1日付で株式会社マツモトキヨシ甲信越販売と株式会社中島ファミリー薬局を合併（存続会社：マツモトキヨシ甲信越販

売）し、平成24年2月10日付で大阪府を中心にドラッグストア・調剤薬局15店舗（内3店舗はマツモトキヨシ業務委託店舗）を展開する弘陽薬品株式会社及び山梨県を中心にドラッグストア10店舗を展開する株式会社イタヤマ・メディコの2社を子会社化しました。

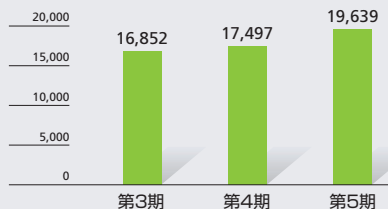
以上の結果、当連結会計年度は、売上高4,345億97百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益181億5百万円（同16.9%増）、経常利益196億39百万円（同12.2%増）、当期純利益99億55百万円（同36.5%増）となり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高となりました。

連結財務ハイライト

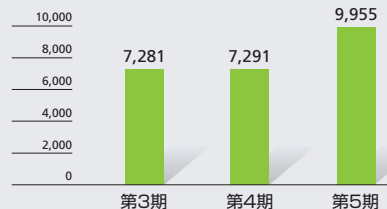
売上高の推移（単位:百万円）



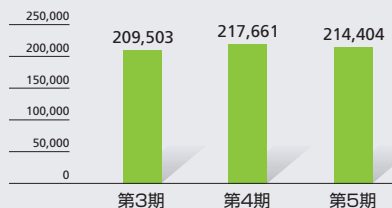
経常利益の推移（単位:百万円）



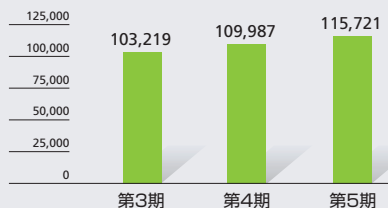
当期純利益の推移（単位:百万円）



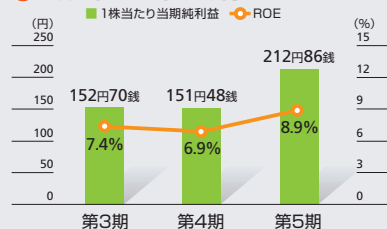
総資産の推移（単位:百万円）



純資産の推移（単位:百万円）



1株当たり当期純利益・ROE



トップメッセージ

グループ経営戦略の方向性について

1. 経営の基本方針

当社グループは、「1st for you. あなたにとっての、いちばんへ。」をグループ経営理念としております。この理念に基づき、私たちは美と健康の分野で、常に新しい付加価値の創造と心を込めたサービスにより、人々の健康と豊かな生活に貢献する企業を目指してまいります。

また、これからの高齢化社会を支えるため、当社グループではセルフメディケーションを推進し、お客様とその大切な人の健康を守る「かかりつけ薬局」として、地域医療に貢献していきたいと考えております。

2. 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、厳しい環境下でも安定して利益を創出できる収益基盤を確立するため、「事業構造の変革」「意識・行動の変革」の2つの経営変革を推進しており、経営環境の変化や新たな課題に的確に対応する

ため、ローリング方式で計画を見直し、平成24年度からは新しい変革「マーケティングプロセスの変革」を加えて取り組んでまいります。

① 事業構造の変革

当社グループのコア事業である「ドラッグストア事業」において、更なる収益力の強化と経営合理化の徹底により、新しい収益モデルへの転換を図ります。

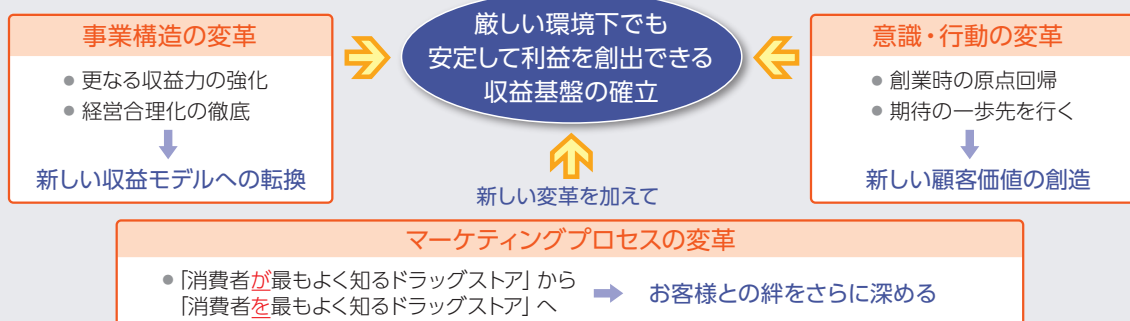
② 意識・行動の変革

近年の厳しい経営環境の中、今一度、先駆者的存在として業界を牽引してきた創業時の原点に立ち戻り、お客様の期待の一步先を行く新しい顧客価値の創造を目指します。

③ マーケティングプロセスの変革

“「消費者が最もよく知るドラッグストア」から「消費者を最もよく知るドラッグストア」へ”を新たなマーケティングコンセプトとして、単なる販売支援ではなく、お客様との絆を更に深めることを目指します。

○ 中期経営計画



3. 会社の対処すべき課題

当社グループを取り巻く経営環境は、今後も先行き不透明な厳しい状況が続くものと予想されます。

このような環境の中、当社グループといたしましては基本に立ち返り、お客様から信頼され、選ばれる企業を目指し、更なる企業努力を重ねてまいります。

また、当社グループは平成24年12月に創業80周年の節目を迎えることから、この節目の年を新たな成長への布石とすべく、グループ丸となって以下の5つの重点課題に取り組んでまいります。

① エリアドミナント戦略の推進

全国を7つのエリアに区分し、エリア単位でドミナント化の推進とグループ店舗網の最適化を図ることにより、ドミナントエリア内におけるシェアNo.1を実現する

② 徹底した顧客志向の追求

お客様との対話(双方向コミュニケーション)により、お客様一人ひとりの真のニーズを理解し、それに応

えることで長期的かつ良好な関係づくりを実現する

③ 経営資源の効率化・合理化

資本効率及びキャッシュフローを重視した経営への転換により、経営資源を最大限に有効活用し、収益性の向上・財務体質の強化を実現する

④ 安定的収益基盤の拡充

既存事業の収益性向上を図るとともに、成長分野(新業態開発・ネット通販・海外市場など)へ積極的に投資し、将来の利益の源泉となる事業の創出・育成を実現する

⑤ 未来を創る自律型人材の育成

次世代をリードする人材の育成と健康づくりの担い手となる専門人材の育成により、地域の活性化を推進し、地域のお客様が喜ぶサービスの提供を実現する

これら5つの重点課題への取り組みを着実に実行することにより、更なる収益拡大と経営の効率化を図ってまいります。

○ 平成24年度の重点課題

未来を創る自律型人材の育成

次世代を担う人材や専門人材の育成により
地域の活性化を推進し
地域のお客様が喜ぶサービスの提供を実現する

安定的収益基盤の拡充

成長分野へ積極的に投資し、
将来の利益の源泉となる事業の創出・育成を実現する

エリアドミナント戦略の推進

全国7つのエリアでドミナント化の推進とグループ店舗網の最適化により
ドミナントエリア内におけるシェアNo.1を実現する

対処すべき課題

徹底した顧客志向の追求

お客様との対話により、
真のニーズを理解しそれに応えることで
長期的かつ良好な関係づくりを実現する

経営資源の効率化・合理化

資本効率およびキャッシュフロー重視の経営により
経営資源を最大限に活用し
収益性の向上・財務体質の強化を実現する

エリアドミナント戦略の推進に向けたグループ会社の再編

当社グループは、小商圈化する市場への対応として、各地域における競争優位性を確保すべく、ドミナント戦略を推進しております。

○ 甲信越エリアの再編

当社の連結子会社である株式会社マツモトキヨシ甲信越販売（本社：長野県岡谷市）と株式会社中島ファミリー薬局（本社：長野県須坂市）を、マツモトキヨシ甲信越販売を存続会社とし、中島ファミリー薬局を消滅会社とする吸収合併方式により、平成24年1月1日付で合併いたしました。

マツモトキヨシ甲信越販売は長野県南部、新潟を、中島ファミリー薬局は長野県北部をそれぞれ基盤としており、互いの強みとする地域密着型の事業を更に強化するとともに、同一地域内ならびに各県内での競争力を高め、運営コストの効率化、地域・お客様ニーズに合わせた品揃えなど、各種施策により甲信越地域における更なるシェア拡大を実現してまいります。



○ 九州エリアの再編

当社の連結子会社である株式会社マツモトキヨシ（本社：千葉県松戸市）の九州地域でのドラッグストア事業を会社分割し、同じく当社の連結子会社である株式会社ミドリ薬品（本社：鹿児島県鹿児島市）へ承継させる会社分割を、平成24年4月1日付で実施いたしました。

これにより、同地域内ならびに各県内での競争力を高め、運営コストの効率化、地域・お客様ニーズに合わせた品揃えなど、地域特性や環境に合わせた各種施策を実行することで、九州地域における更なるシェア拡大を実現してまいります。

また、同日をもって「株式会社ミドリ薬品」を「株式会社マツモトキヨシ九州販売」へ商号変更しております。



M&Aによるグループ総合力の強化

当社は、更なるグループ競争力の強化による継続的な成長とエリアドミナント化の一環として当期において新たに2社の全株式を取得し子会社化いたしました。

● 株式会社イタヤマ・メディコの完全子会社化

当社は、山梨県内を基盤としてドラッグストアを展開している株式会社イタヤマ・メディコの全株式（発行済株式数：1,200株）を平成24年2月10日付で取得いたしました。

同社は、全てのお客様にご満足いただける接客を基本に、「美」と「健康」をサポートし豊かな生活を提案することを目指した地域に密着した「かかりつけ薬局」として、山梨県内に10店舗を展開しております。

会社概要

所在地：山梨県甲府市桜井町643番地1
代表者：代表取締役社長 板山 和正
資本金：60百万円
設立年月日：昭和63年1月30日



● 弘陽薬品株式会社の完全子会社化

当社は、大阪府を基盤としてドラッグストア・調剤薬局を展開している弘陽薬品株式会社の全株式（発行済株式数：76,800株）を平成24年2月10日付で取得いたしました。

同社は、お客様の健康管理を使命に、「美」と「健康」をテーマとした商品及びサービスの提供を行っており、大阪府を中心に15店舗（内3店舗はマツモトキヨシ業務委託店舗）を展開しております。

会社概要

所在地：大阪府大阪市生野区勝山北1丁目7番17号
代表者：代表取締役社長 森川 勝
資本金：48百万円
設立年月日：昭和34年2月18日



東日本大震災への支援活動について

当社グループは、被災地の復旧・復興を祈念し、当社グループ各店舗での募金活動、支援物資の寄贈などの支援活動を実施いたしました。

今後も、当社グループでは、地域に密着したかかりつけ薬局として、引き続き支援活動を行ってまいります。

○ 義援金・募金活動

当社グループは、東日本大震災の被災地を支援するために、全国の当社グループ全店にて募金箱を設置し、店頭での募金活動を実施いたしました。また、当社グループからも義援金を寄付させていただきました。

これらの活動により、総額208,473,100円を寄付させていただきました。



○ 支援物資の寄贈

当社グループは、被災地より多く要望がありました生活用品、衛生用品、飲料など、ドラッグストアで取り扱いのある商品(4,590万円相当分)を寄贈いたしました。

(主な支援物資：ハンドソープ、アルコールスプレー、包帯、冷却シート、フェイシャルペーパー、マスク、アルコールジェル、ティッシュ、トイレットペーパー、傷テープなど)



PB商品の紹介



お客様視点で開発した
マツモトキヨシグループの
オリジナル商品

MK CUSTOMER

5つのこだわり

1 安心と安全を追求しています。

原材料(成分)の厳選はもちろん、製造工程におけるチェック体制、最終試用テストを実施し、つねに安心と安全の品質を追求していきます。

2 お客様の声を反映します。

新製品開発において、モニター等を実施し、品質や機能において、お客様の意見をしっかり反映させていきます。

3 お求めやすい価格に設定しています。

高品質を追求しながら、できる限り価格を抑えています。お求めやすい価格であることも、大切な基準のひとつと考えます。

4 ヘルス&ビューティーを見つめた商品を提案します。

健康な生活に役立つ商品、内側から外側から美しさへの願望に応える商品など、ドラッグストアならではのセルフメディケーション商品を開発・提案していきます。

5 環境に配慮した商品開発を行っています。

環境に優しい製法や包装、地球の健康に気づかった原材料を徹底させていきます。

メラニン包囲の集中美白

メラノサイエンスシリーズ 全品 医薬部外品

シミのもとメラニンに多方面からアプローチします。

美白に本気の方にこそおすすめしたい集中美白スキンケアラインです。



肝臓の働きを改善

ヘパリーゼDX 第3類医薬品

疲れやだるさが抜けない方、胃腸の調子が悪い方、食欲がない方、お酒を飲む機会が多い方におすすめのアミノ酸の滋養強壮剤です。



ハイクオリティ認証取得の第1号サプリメント

和サプリ (五穀米・海野菜・青魚・醗酵食品DX・黒豆・赤野菜・緑野菜)

和食の栄養バランスから生まれた日本人のためのサプリメントシリーズ。
食材をイメージした機能性成分と基礎栄養成分を配合した全7種類。



店舗ネットワーク



Matsumoto KiYoshi
Holdings

株式会社 **マツモトキヨシ** ホールディングス

店舗総数 >>> **1,257** 店舗

(平成24年3月31日現在)

○ ネットワーク (平成24年3月31日現在)

株式会社マツモトキヨシホールディングス

小売事業会社

株式会社マツモトキヨシ	(本社) 千葉県松戸市
株式会社エムケイ東日本販売 (注1)	(本社) 宮城県仙台市
株式会社ミドリ薬品 (注1)	(本社) 鹿児島県鹿児島市
株式会社ラブドラッグス	(本社) 岡山県岡山市
株式会社ぱぱす	(本社) 東京都墨田区
株式会社マツモトキヨシ甲信越販売	(本社) 長野県岡谷市
株式会社トウブドラッグ	(本社) 埼玉県越谷市
株式会社イタヤマ・メディコ	(本社) 山梨県甲府市
弘陽薬品株式会社	(本社) 大阪府大阪市生野区

卸売事業会社

株式会社茂木薬品商会	(本社) 東京都文京区
伊東秀商事株式会社	(本社) 千葉県松戸市

その他の 事業会社

株式会社エムケイプランニング	(本社) 千葉県松戸市
株式会社マツモトキヨシ保険サービス	(本社) 千葉県柏市
株式会社ユーカリ広告	(本社) 千葉県柏市

(注1) 平成24年4月1日をもって、株式会社エムケイ東日本販売は株式会社マツモトキヨシ東日本販売へ、株式会社ミドリ薬品は株式会社マツモトキヨシ九州販売へ商号変更いたしました。

(注2) 弘陽薬品株式会社の店舗数は、株式会社マツモトキヨシより業務委託している3店舗を除いております。

株式会社マツモトキヨシ

マツモトキヨシ

全国に
710 店舗展開



関東エリア	557店舗
甲信越エリア	2店舗
東海エリア	35店舗
関西エリア	54店舗
中国エリア	13店舗
四国エリア	5店舗
九州・沖縄エリア	44店舗

株式会社ミドリ薬品 (注1)

株式会社 **ミドリ薬品**

九州・沖縄エリアに
129 店舗展開



九州・沖縄エリア 129店舗

株式会社ラブドラッグス



関西・中国エリアに
41 店舗展開



関西エリア	5店舗
中国エリア	36店舗

弘陽薬品株式会社 (注2)

コ-ヨ-ドラッグ

関西エリアに
12 店舗展開



関西エリア 12店舗

九州・沖縄エリア
マツモトキヨシ
ミドリ薬品

株式会社マツモトキヨシ甲信越販売

マツモトキヨシ 甲信越販売

東北・甲信越エリアに
77店舗展開



甲信越エリア	76店舗
北海道・東北エリア	1店舗

北海道・東北エリア

エムケイ東日本販売
マツモトキヨシ甲信越販売

株式会社イタヤマ・メディコ

イタヤマ・メディコ

甲信越エリアに
10店舗展開



甲信越エリア	10店舗
--------	------

甲信越エリア

マツモトキヨシ
エムケイ東日本販売
マツモトキヨシ甲信越販売
イタヤマ・メディコ

株式会社エムケイ東日本販売^(注1)

エムケイ東日本販売

東北・関東エリアを中心に
107店舗展開



北海道・東北エリア	30店舗
関東エリア	66店舗
甲信越エリア	8店舗
北陸エリア	3店舗

中国エリア

マツモトキヨシ
ラブドラッグス

北陸エリア

エムケイ東日本販売

株式会社ぱぱす



関東エリアに
139店舗展開



関東エリア	139店舗
-------	-------

関東エリア

マツモトキヨシ
エムケイ東日本販売
ぱぱす
トウブドラッグ

株式会社トウブドラッグ

トウブドラッグ

関東エリアに
32店舗展開



関東エリア	32店舗
-------	------

四国エリア

マツモトキヨシ

関西エリア

マツモトキヨシ
ラブドラッグス
弘陽薬品

東海エリア

マツモトキヨシ

連結財務諸表

○ 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	前期末 平成23年3月31日現在	当期末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	94,665	92,480
現金及び預金	10,542	9,656
受取手形及び売掛金	11,643	11,009
商品	57,342	58,136
貯蔵品	1,775	510
繰延税金資産	3,082	2,698
その他	10,417	10,668
貸倒引当金	△ 140	△ 199
固定資産	122,995	121,924
有形固定資産	62,906	62,691
建物及び構築物	16,748	16,600
土地	41,488	40,998
リース資産	2,622	3,097
建設仮勘定	187	116
その他	1,858	1,878
無形固定資産	10,140	9,461
のれん	7,024	6,580
その他	3,115	2,880
投資その他の資産	49,949	49,771
投資有価証券	7,874	8,691
繰延税金資産	4,192	3,401
敷金及び保証金	35,541	35,335
その他	3,340	2,825
貸倒引当金	△ 999	△ 482
資産合計	217,661	214,404

1 資産の状況

当連結会計年度末における総資産は2,144億4百万円となり、前連結会計年度末と比較し32億56百万円減少となりました。主な減少要因は、貯蔵品12億65百万円です。

2 負債の状況

当連結会計年度末における負債合計は986億83百万円となり、前連結会計年度末と比較し89億90百万円減少となりました。主な減少要因は、短期借入金59億円です。

(単位：百万円)

科 目	前期末 平成23年3月31日現在	当期末 平成24年3月31日現在
負債の部		
流動負債	80,454	72,159
支払手形及び買掛金	54,812	54,062
短期借入金	6,400	500
1年内返済予定の長期借入金	372	372
リース債務	859	1,150
未払法人税等	3,437	3,821
賞与引当金	2,635	2,747
ポイント引当金	2,122	1,559
資産除去債務	4	24
その他	9,810	7,922
固定負債	27,219	26,523
転換社債型新株予約権付社債	15,000	15,000
長期借入金	752	380
リース債務	2,166	2,326
繰延税金負債	1,141	1,084
退職給付引当金	846	929
資産除去債務	3,338	3,454
その他	3,975	3,348
負債合計	107,673	98,683
純資産の部		
株主資本	109,483	114,528
資本金	21,086	21,086
資本剰余金	21,866	21,866
利益剰余金	80,289	88,334
自己株式	△ 13,757	△ 16,757
その他の包括利益累計額	△ 1,061	△ 467
その他有価証券評価差額金	△ 1,061	△ 467
新株予約権	8	14
少数株主持分	1,555	1,645
純資産合計	109,987	115,721
負債・純資産合計	217,661	214,404

3 純資産の状況

当連結会計年度末における純資産合計は1,157億21百万円となり、前連結会計年度末と比較し57億34百万円増加となりました。主な増加要因は、当期純利益99億55百万円です。主な減少要因は、自己株式29億99百万円、剰余金の配当19億8百万円です。

○ 連結損益計算書 (要旨)

4 業績の状況

当連結会計年度の業績は、厳しい経済環境ながらも、期初での花粉飛散量の増加に伴う関連商材の拡大、夏の節電需要に対応した冷却商材・制汗剤及び猛暑・寒冬によるシーズン商品の伸長、新規出店、M&Aによる2社の子会社化などにより、売上高が対前年同期比1.5%増加いたしました。

また、効率的かつ効果的な販売促進施策を展開し、販売費の抑制につとめた結果、営業利益、経常利益、当期純利益は、それぞれ対前年同期比16.9%、12.2%、36.5%増加となり、売上高、各利益ともに過去最高となりました。

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成22年4月 1 日から 平成23年3月31日まで	平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで
売上高	428,184	434,597
売上原価	308,954	312,111
売上総利益	119,230	122,486
販売費及び一般管理費	103,738	104,381
営業利益	15,491	18,105
営業外収益	2,456	1,697
営業外費用	451	163
経常利益	17,497	19,639
特別利益	1,346	258
特別損失	4,439	1,657
税金等調整前当期純利益	14,403	18,240
法人税、住民税及び事業税	7,228	7,273
法人税等調整額	△ 303	789
少数株主損益調整前当期純利益	7,478	10,177
少数株主利益	186	221
当期純利益	7,291	9,955

○ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

5 キャッシュ・フローの状況

・営業活動によるキャッシュ・フロー／162億46百万円の収入となりました。主なプラス要因は、税金等調整前当期純利益182億40百万円、減価償却費46億77百万円、敷金及び保証金の家賃相殺額15億11百万円、たな卸資産の減少額13億36百万円、減損損失11億12百万円です。主なマイナス要因は、法人税等の支払額68億81百万円、仕入債務の減少額17億62百万円、未払金の減少額12億61百万円です。

・投資活動によるキャッシュ・フロー／42億93百万円の支出となりました。主なマイナス要因は、有形固定資産の取得による支出26億68百万円、敷金及び保証金の差入による支出17億53百万円です。

・財務活動によるキャッシュ・フロー／128億38百万円の支出となりました。主なマイナス要因は、短期借入金の減少額60億50百万円、自己株式の取得による支出30億円、配当金の支払額19億8百万円です。

(単位：百万円)

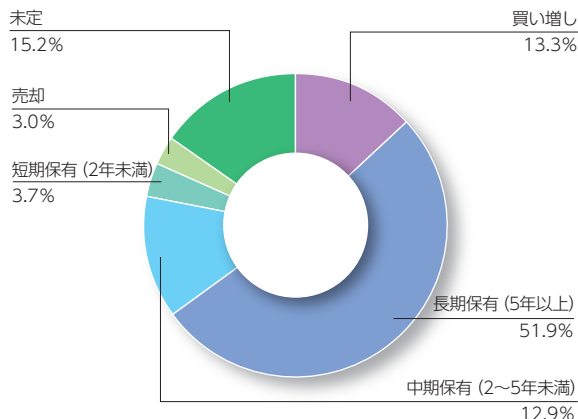
科 目	前 期	当 期
	平成22年4月 1 日から 平成23年3月31日まで	平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,266	16,246
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,135	△ 4,293
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,811	△ 12,838
現金及び現金同等物の増減額	△ 680	△ 885
現金及び現金同等物の期首残高	11,222	10,542
現金及び現金同等物の期末残高	10,542	9,656

アンケート結果のご報告

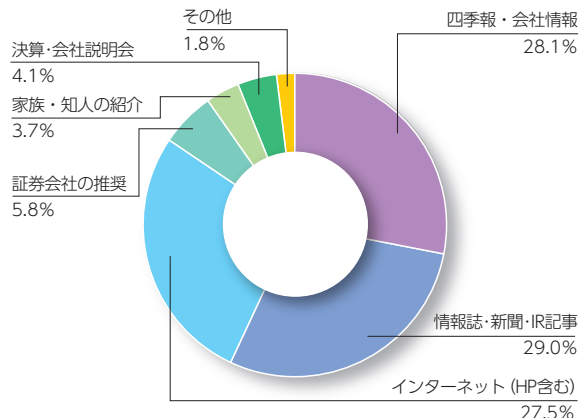
平成23年12月に実施いたしました「株主アンケート」に多数のご回答いただき誠にありがとうございました。
つきましては、その結果の一部をご報告させていただきます。



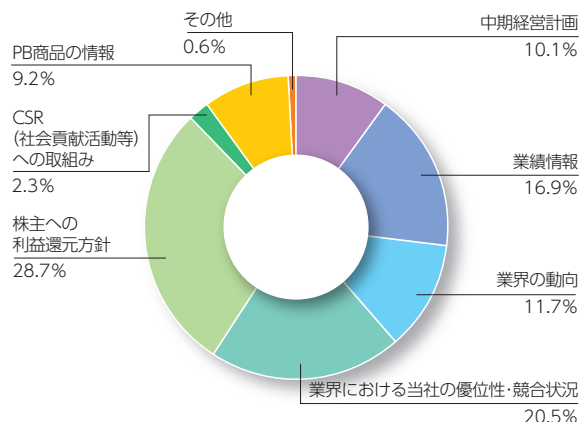
当社株式の今後の保有方針についてお聞かせください。



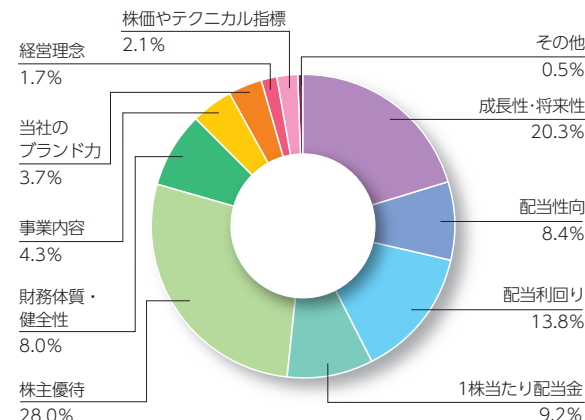
投資先を検討する際に、よく利用する情報源をお聞かせください。



当社に関して、もっとお知りになりたい情報をお聞かせください。



株式投資を決定される際に、特に重視するものをお聞かせください。



株式の状況・会社概要

(平成24年3月31日現在)

株式の状況

発行可能 210,000,000株

株式総数
発行済株式総数 53,579,014株

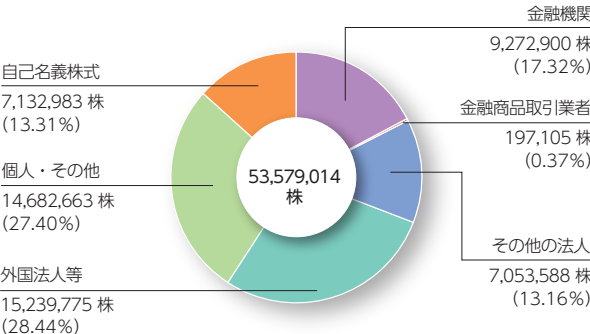
株主数 20,743名

大株主 (上位10位)

株主名	保有株式数 (単位：株)	持株比率 (単位：%)
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウントアメリカングライアント	5,969,285	12.85
松本 鉄男	5,615,400	12.09
松本 南海雄	4,174,540	8.99
株式会社千葉銀行	2,257,800	4.86
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリユーエスタックスエグゼンティブペンションファンズ	2,247,900	4.84
株式会社南海公産	1,743,588	3.75
エーザイ株式会社	1,407,500	3.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,238,200	2.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,171,300	2.52
メロンバンクエヌエーアズエーエージェントフォーイツクライアントメロンオムニバスユーエスペンション	760,400	1.64

(注) 1. 当社は自己株式7,132,983株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式総数を減じた株式 (46,446,031株) を基準に算出し、小数第3位以下を四捨五入しております。

所有者別株式状況



会社概要

名称 株式会社マツモトキヨシホールディングス

所在地 〒270-8511 千葉県松戸市新松戸東9番地1

電話番号 047-344-5110 (代表)

設立 平成19年10月1日

資本金 210億86百万円

事業内容 子会社の管理・統轄および商品の仕入・販売

従業員数(連結) 正社員： 5,123名
パート： 7,337名(8時間換算)
合計：12,460名

(平成24年6月28日現在)

役員

代表取締役会長兼社長	松本 南海雄
専務取締役	成田 一夫
専務取締役	松本 清雄
取締役相談役	松本 鉄男
取締役	根津 孝一
社外取締役	大爺 正博
社外取締役	小林 諒一
社外取締役	大山 健一
監査役(常勤)	大森 哲夫
社外監査役	鈴木 哲
社外監査役	日野 実

株主メモ	
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
1単元の株式数	100株
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部（証券コード3088）
公告の方法	電子公告 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/3088/3088.html ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主優待商品券の利用店舗拡大のお知らせ

平成24年6月15日開催の当社取締役会において、
当社の株主優待制度の利用店舗をグループ店舗へ拡大する旨決議いたしました。
今後は、本資料の店舗ネットワーク（9頁・10頁）でご紹介しております
当社グループ店舗にてご利用可能となりましたので、
是非ともご利用くださいますようお願いいたします。

株式会社 **マツモトキヨシ** ホールディングス
<http://www.matsumotokiyoshi-hd.co.jp/>

〒270-8511 千葉県松戸市新松戸東9番地1
TEL. 047-344-5110（代表）



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



環境に配慮した
「ベジタブルインキ」を
使用しています。